

東商けいきょう集計結果

(中小企業の景況感に関する調査)

2016年度1～3月期

2016年3月23日
中小企業部

東京の景況は横ばい。先行きも慎重な見通し。

- 「業況DI」(前年同期比・全業種)は、前期(10～12月期)と比べ0.1ポイント改善し▲7.3と、前回調査に引き続き、横ばいの動きとなった。業種別では、下降傾向が続く製造業は5.2ポイント悪化し▲17.3となった。一方、建設業では悪化から不変への変化を主因とし、10.6ポイント改善し、5.9とプラス圏に回復した。年明け以降の株価下落や為替の円高傾向等で、先行きへの不透明感が強まる中、来期の見通し(前年同期比)は、今期と比べ0.6ポイント悪化し▲7.9と、慎重な見通し。
- 「売上DI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ3.1ポイント悪化し、▲6.5と3期連続の悪化となった。業種別では、暖冬による冬物衣料の売れ行き不調や、個人消費の低迷の影響を受け、小売業が6.6ポイント悪化し▲22.3となった。5業種全てで悪化したものの、サービス業は4.6とプラス圏を保った。来期の見通し(前年同期比・全業種)は、今期と比べ2.4ポイント改善し▲4.1を見込む。
- 「採算DI」(今期水準、「黒字」と回答した企業ー「赤字」と回答した企業の割合・全業種)は、前期から0.5ポイント改善し16.8と横ばいの動きが続く。業種別では、「仕入れ値の上昇・価格転嫁の難しさ・価格競争の激化」を依然課題とする卸売業で9.6ポイント悪化し8.6となった。一方、建設業は、引き合いの増加により選別受注が進み、7.8ポイント改善し33.0となった。来期の見通し(来期水準・全業種)は、4.1ポイント改善の20.9を見込む。
- 「資金繰りDI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ1.9ポイント改善し▲4.2となった。業種別では、前期大きく悪化していた建設業が17.2ポイントの改善と持ち直し、9.7となった。
- 「採用の動向」は、2015年度正社員を採用した企業が36%、非正規社員を採用した企業が26.8%。2016年度正社員の採用を予定する企業が34.1%(現段階では未定とする企業は18.3%)、非正規社員を採用する企業は20.1%(現段階では未定とする企業は21.9%)となった。

【調査要領】

○調査期間：2016年2月19日～3月1日

○調査項目：業況、売上、採算(経常利益)、資金繰り、民間金融機関の貸出姿勢

○回答数：835社(回答率34.3%) <業種構成>・製造業196社(23.5%)・建設業103社(12.3%)・卸売業129社(15.4%)・小売業108社(12.9%)・サービス業299社(35.8%) <資本金規模構成>・1000万円以下(個人事業主含む)481社(57.6%)・1000万円超～3000万円以下176社(21.1%)・3000万円超～1億円以下159社(19.0%)・1億円超19社(2.3%)

※本集計結果におけるDI値とは、「好転」「良い」「増加」「好調」「黒字」「緩和」「緩い」と回答した企業の割合ー「悪化」「悪い」「減少」「不調」「赤字」「厳しい」と回答した企業の割合。

※全ての質問について、割合は四捨五入を行っているため、必ずしも合計が100.0%にならない。

※本調査結果の集計にあたっては、独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「中小企業景況調査」の調査結果を一部活用している。

○調査対象：東京23区内の中小企業2,437社

○調査方法：FAXおよび経営指導員による聴き取り

1. 業況

○「業況DI」（前年同期比・全業種）は、前期（10～12月期）と比べ0.1ポイント改善し▲7.3と、前回調査に引き続き、横ばいの動きとなった。業種別では、下降傾向が続く製造業は5.2ポイント悪化し▲17.3となった（11頁参照）。一方、建設業では悪化から不変への変化を主因とし、10.6ポイント改善し、5.9とプラス圏に回復した。年明け以降の株価下落や為替の円高傾向等で、先行きへの不透明感が強まる中、来期の見通し（前年同期比）は、今期と比べ0.6ポイント悪化し▲7.9と、慎重な見通し。

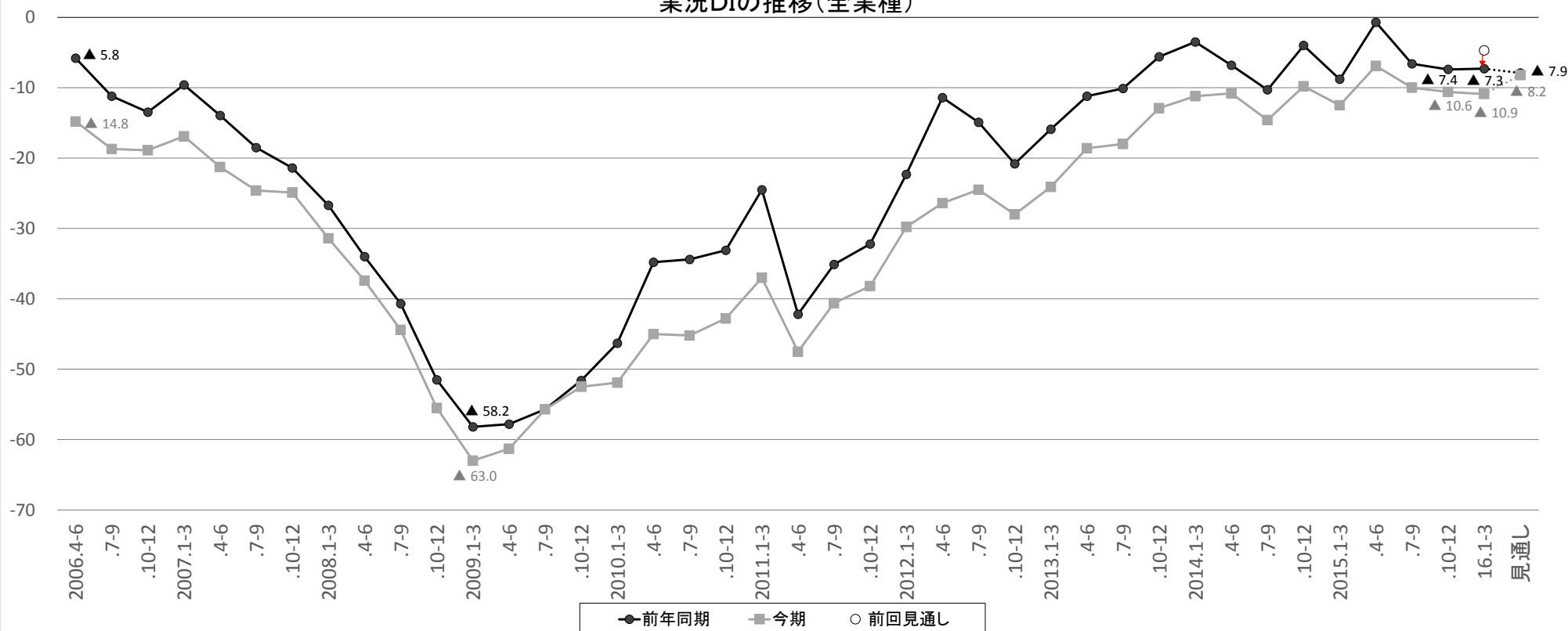
【企業の声】国内景気が本格的な回復に至らず、顧客企業の設備投資が進まない。（製造業：ケーブル付属材料等製造）

ホテルの室数不足により改装工事が多く、オリンピック迄は仕事が途切れないと考えている。（建設業：内装工事）

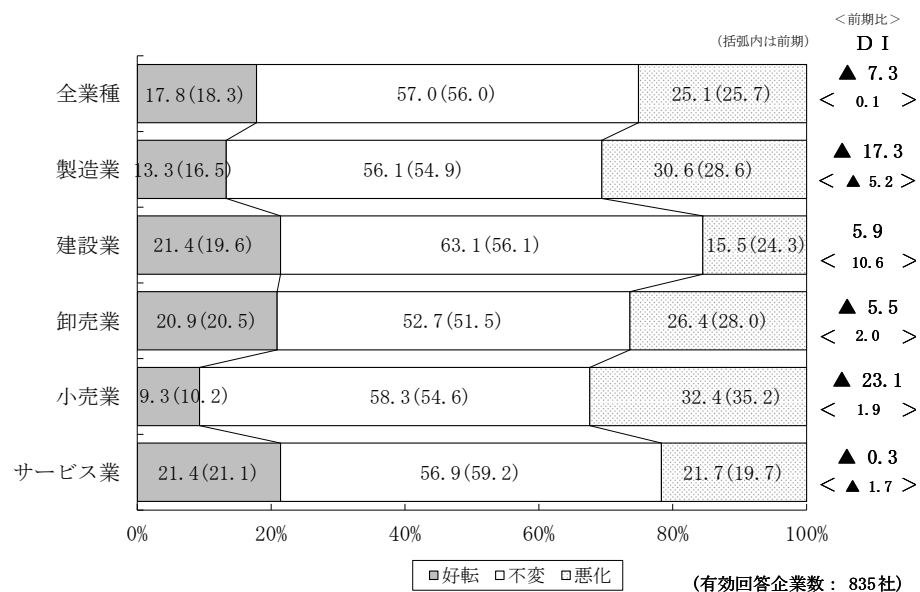
年明け以降の株価下落や為替の変動に加え、消費増税や軽減税率導入等、不安材料があり過ぎる。（サービス業：中華料理店）

中国等国外取引を主としていた大企業が中国経済の低迷を受け、国内少額案件にも参入し、パイの奪い合い。（卸売業：油圧機械部品卸）

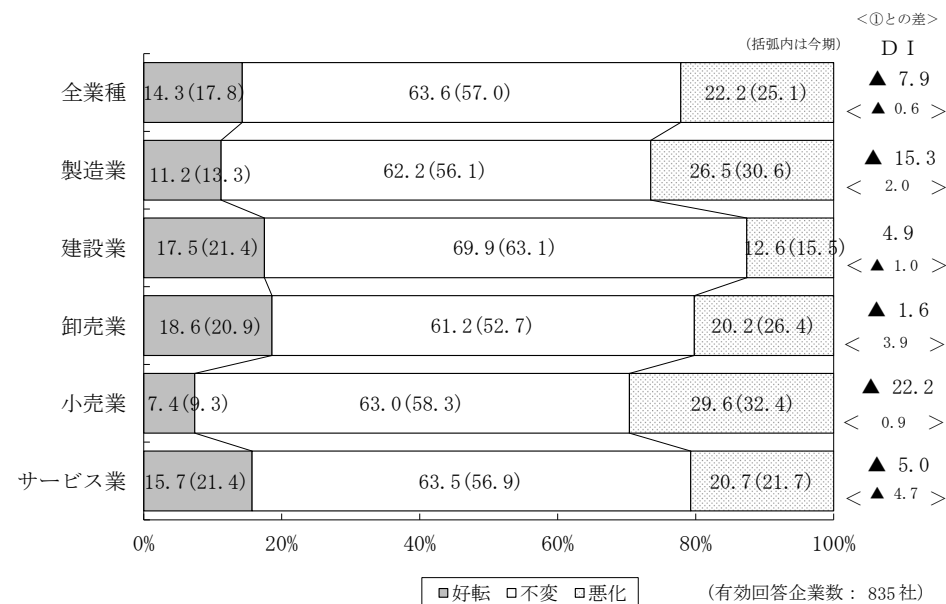
業況DIの推移(全業種)



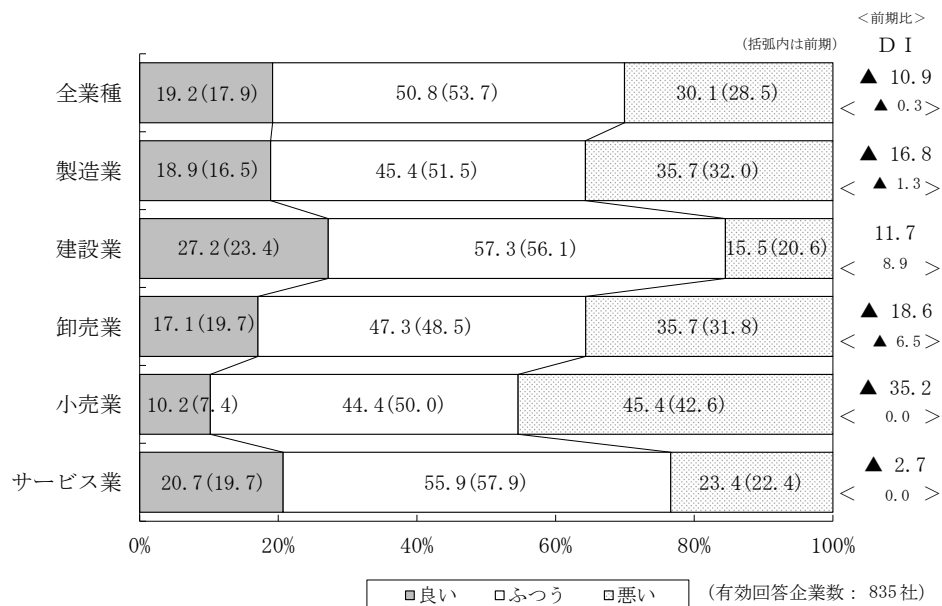
①今期の業況（前年同期比）



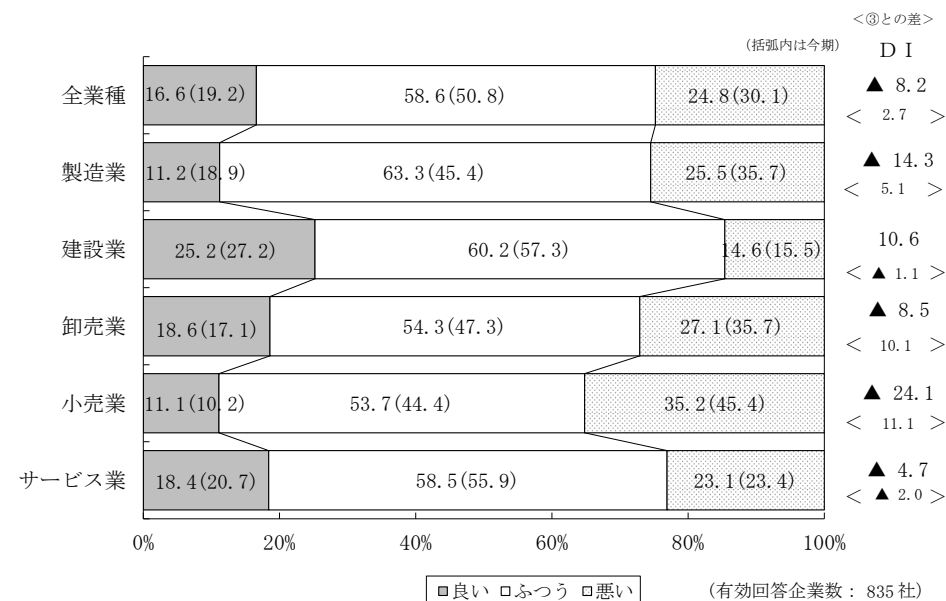
②来期の業況の見通し（前年同期比）



③今期の業況（水準）



④来期の業況の見通し（水準）



2. 売上

○「売上DI」（前年同期比・全業種）は、前期と比べ3.1ポイント悪化し、▲6.5と3期連続の悪化となった。業種別では、暖冬による冬物衣料の売れ行き不調や、個人消費の低迷の影響を受け、小売業が6.6ポイント悪化し▲22.3となった。5業種全てで悪化したものの、サービス業は4.6とプラス圏を保った。来期の見通し（前年同期比・全業種）は、今期と比べ2.4ポイント改善し▲4.1を見込む。

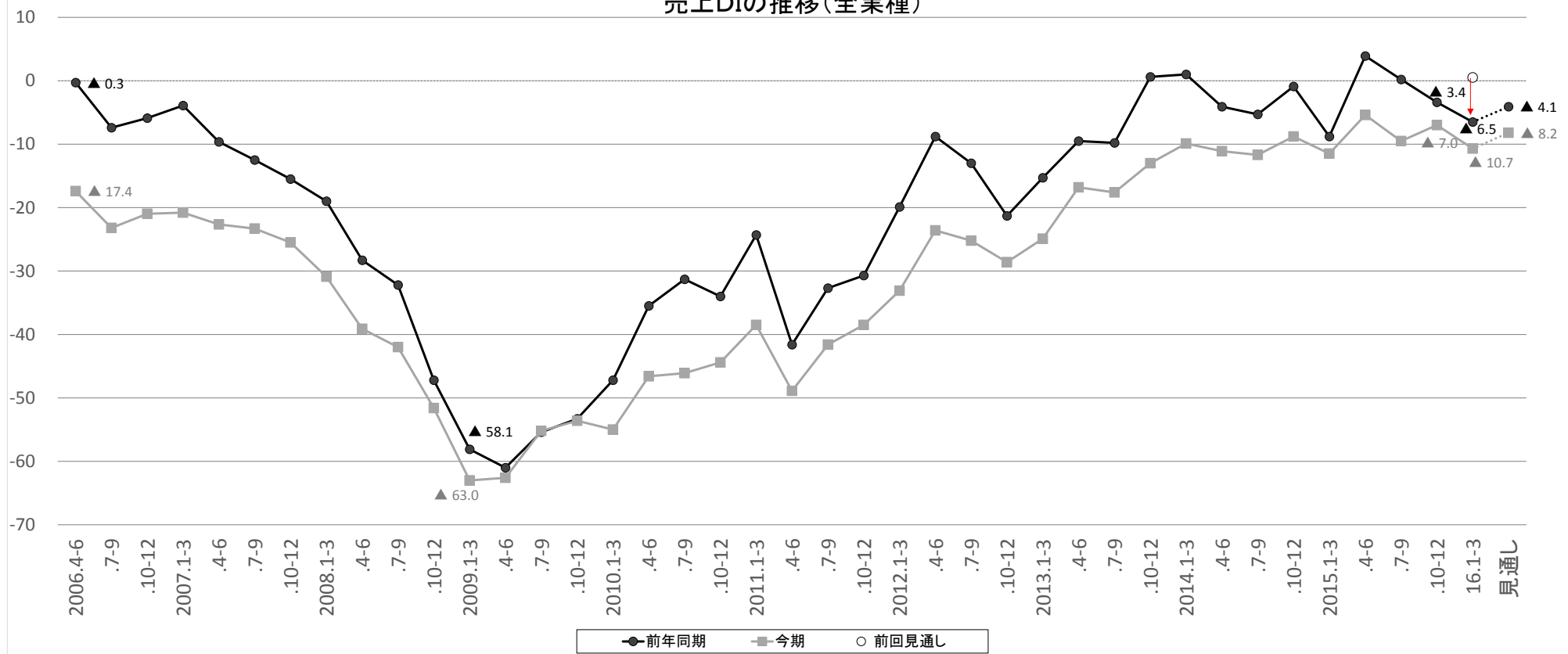
【企業の声】暖冬の為、コート、マフラー、手袋の売上が悪い。（小売業：婦人衣料、ギフト用品小売）

年度末は例年需要が増大し繁忙期となるが、総受注量は年々減少している。（製造業：事務用平版印刷）

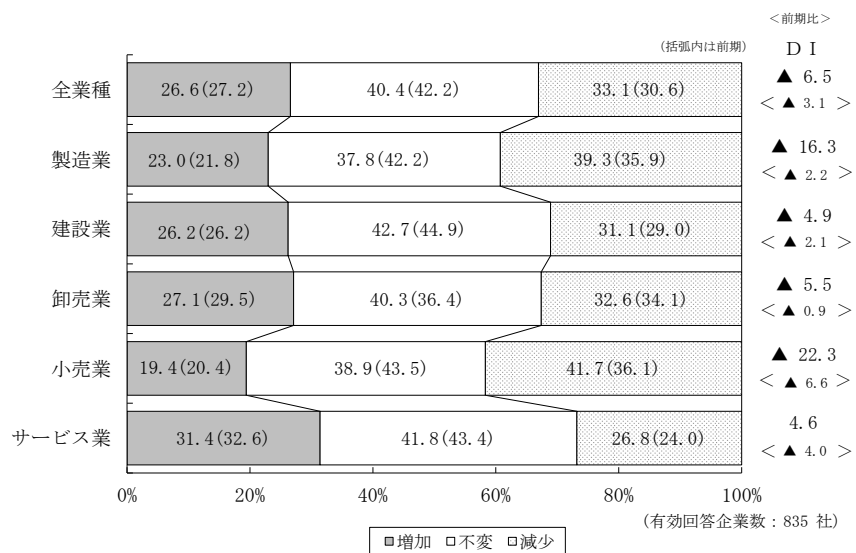
金融緩和により、不動産売買が活発になっている。（サービス業：不動産仲介等）

個人消費が改善しないと、結婚式場の売上も良くならない。先行に不安を感じる。（サービス業：式場運営）

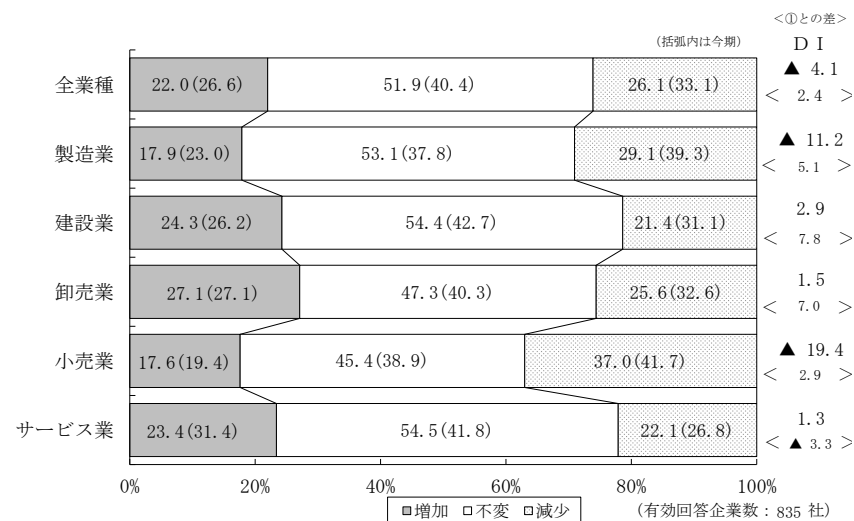
売上DIの推移(全業種)



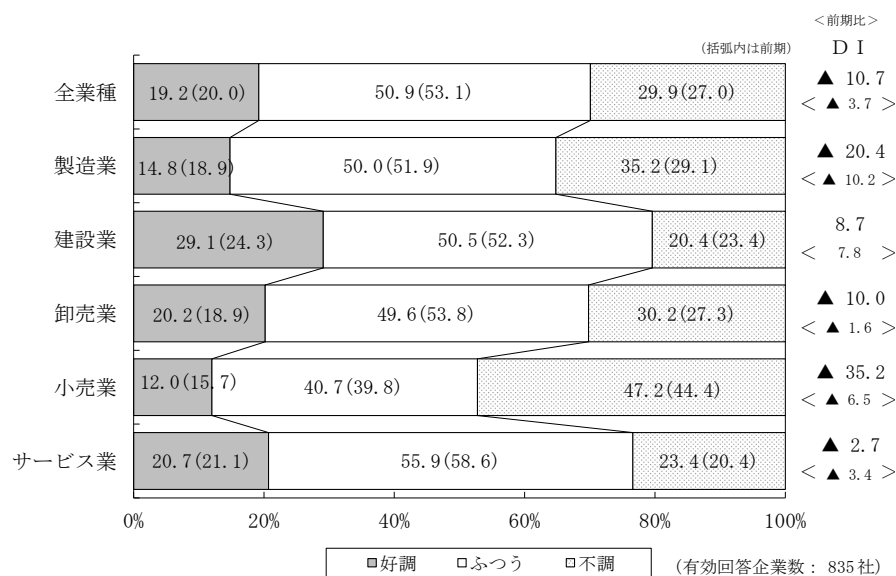
①今期の売上（前年同期比）



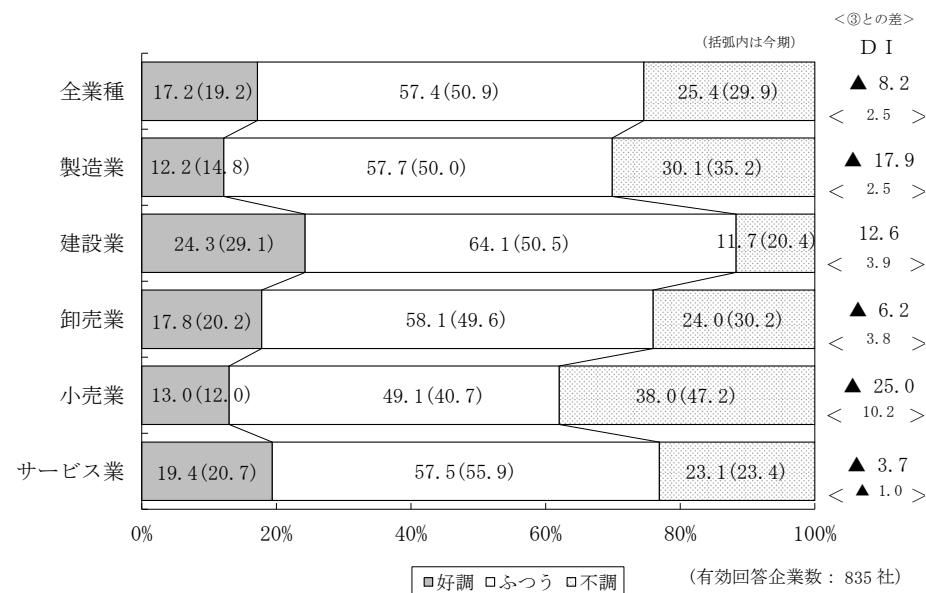
②来期の売上の見通し（前年同期比）



③今期の売上（水準）



④来期の売上の見通し（水準）



3. 採算（経常利益）

○「採算DI」（今期水準、「黒字」と回答した企業－「赤字」と回答した企業の割合・全業種）は、前期から0.5ポイント改善し16.8と横ばいの動きが続く。業種別では、「仕入れ値の上昇・価格転嫁の難しさ・価格競争の激化」を依然課題とする卸売業で9.6ポイント悪化し8.6となった。一方、建設業は、引き合いの増加により選別受注が進み、7.8ポイント改善し33.0となった。来期の見通し（来期水準・全業種）は、4.1ポイント改善の20.9を見込む。

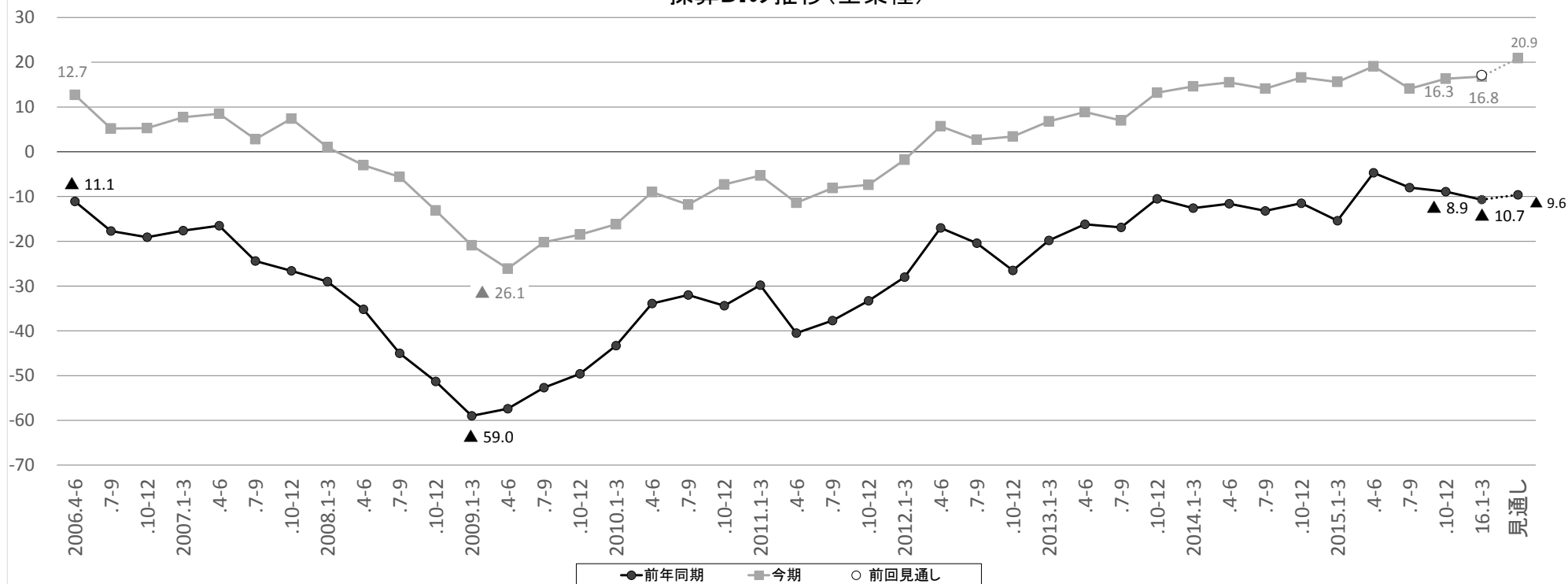
【企業の声】仕入れ値が上がっているが、販売価格に転嫁出来ない。（卸売業：内装材卸・販売）

売上は増加しているが、価格競争が激化し利益が取れない。また人員が定着せず、生産性が上がらない。（卸売業：加工食品材料卸）

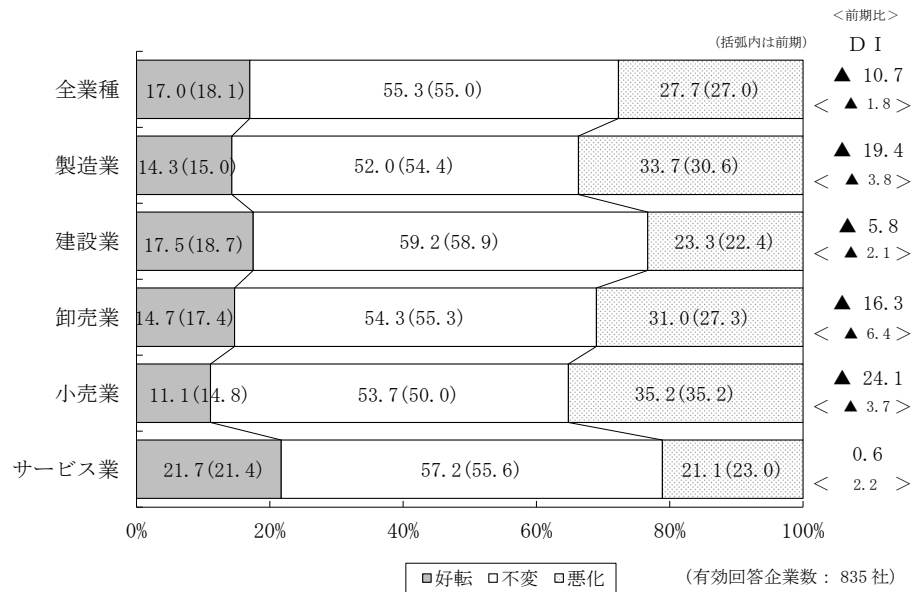
引き合いが多く選別受注が出来、採算は黒字を確保の見込み。（建設業：空調設備工事）

石油価格下落により、採算は黒字化している。（サービス業：クリーニング）

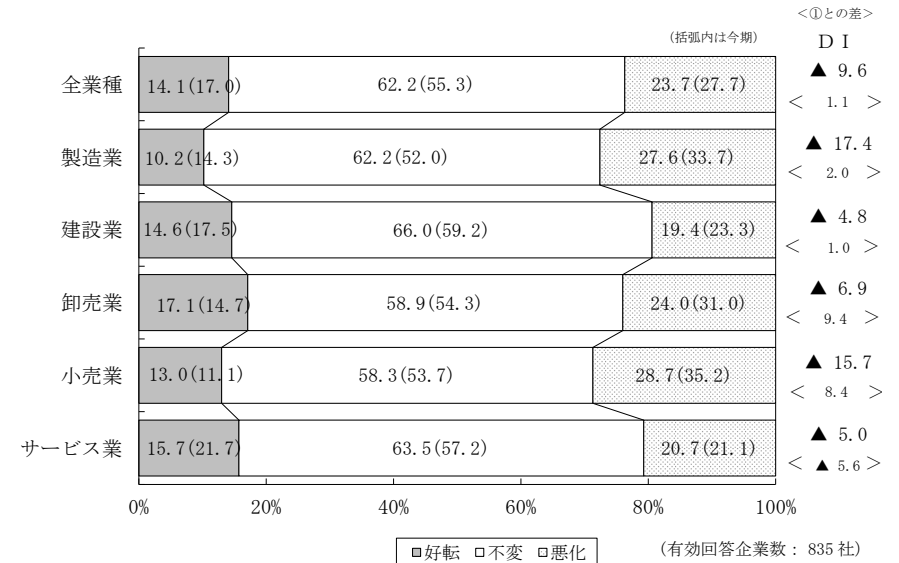
採算DIの推移（全業種）



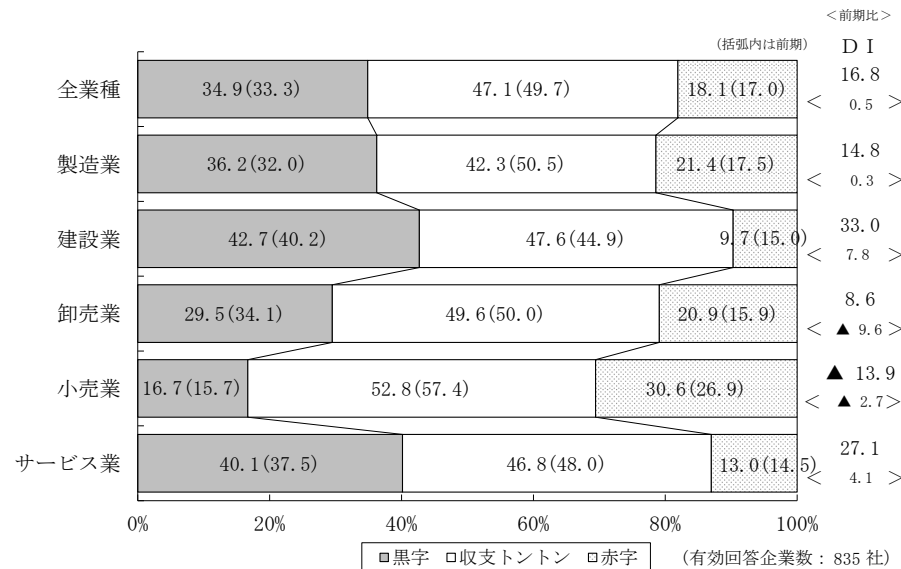
①今期の採算（前年同期比）



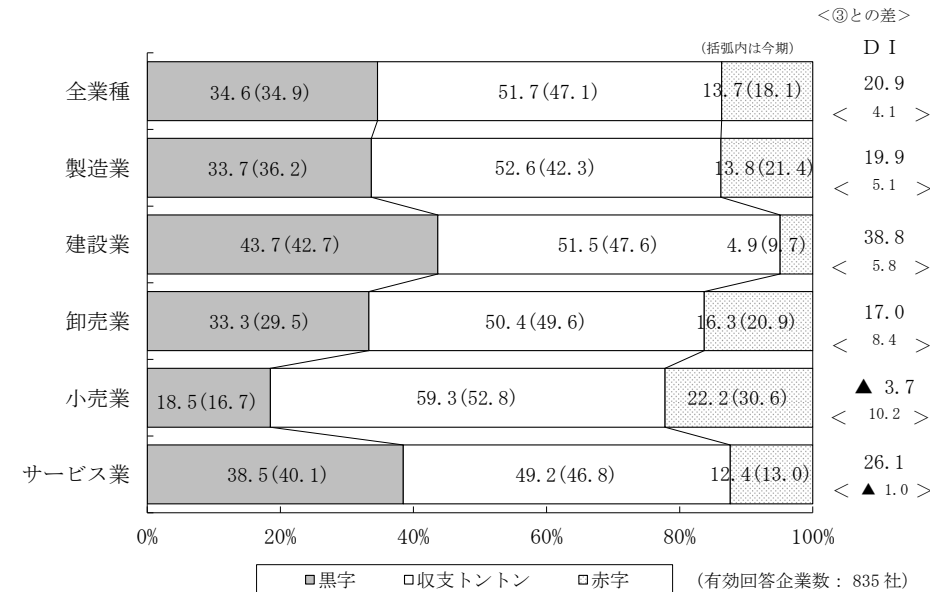
②来期の採算の見通し（前年同期比）



③今期の採算（水準）

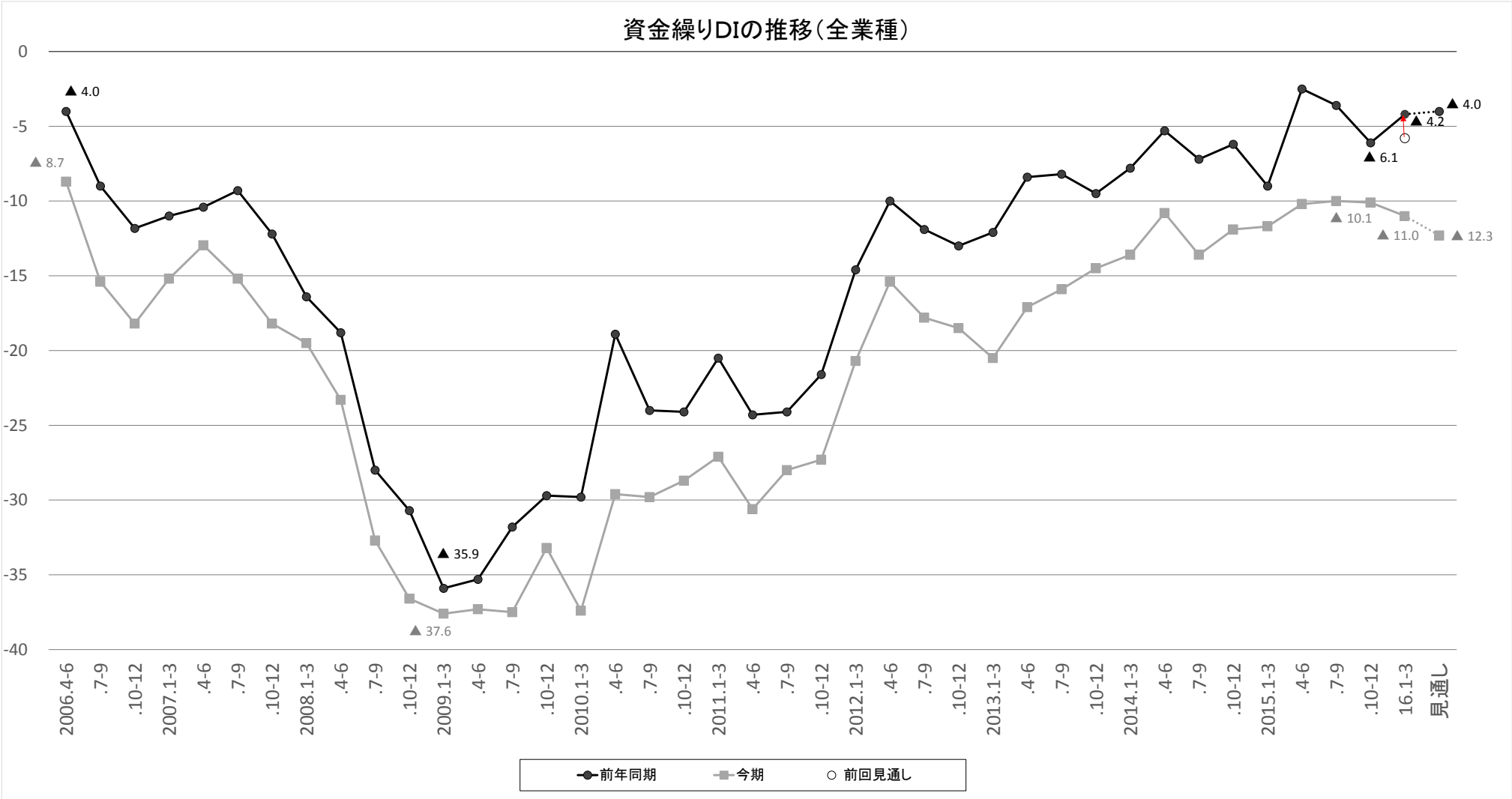


④来期の採算の見通し（水準）

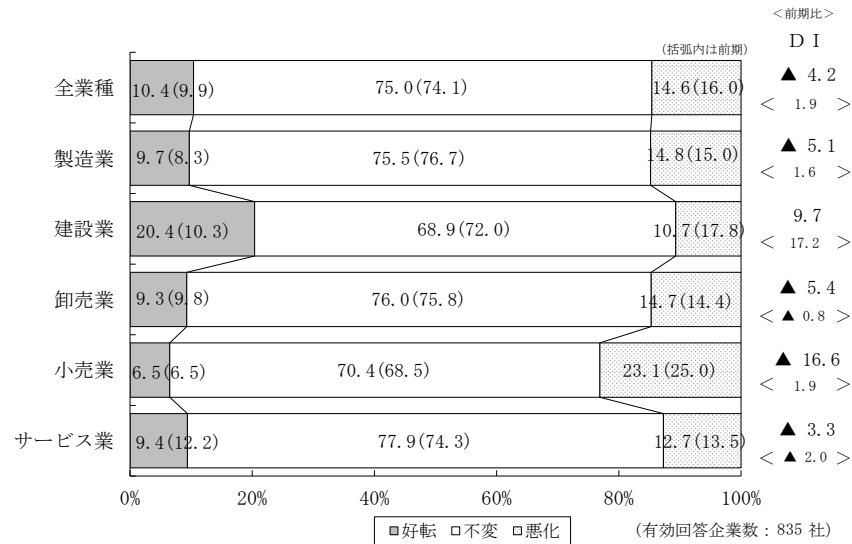


4. 資金繰り

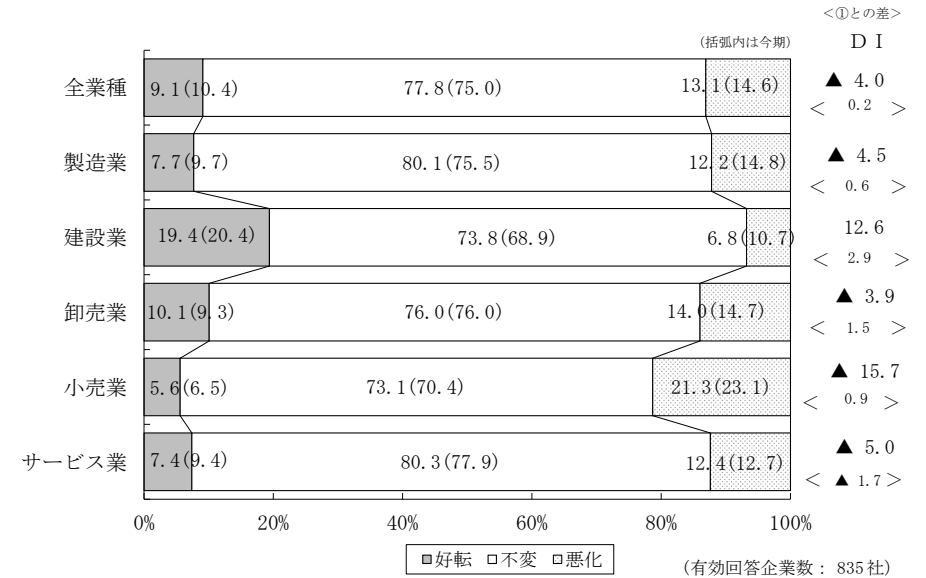
○「資金繰りDI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ1.9ポイント改善し▲4.2となった。



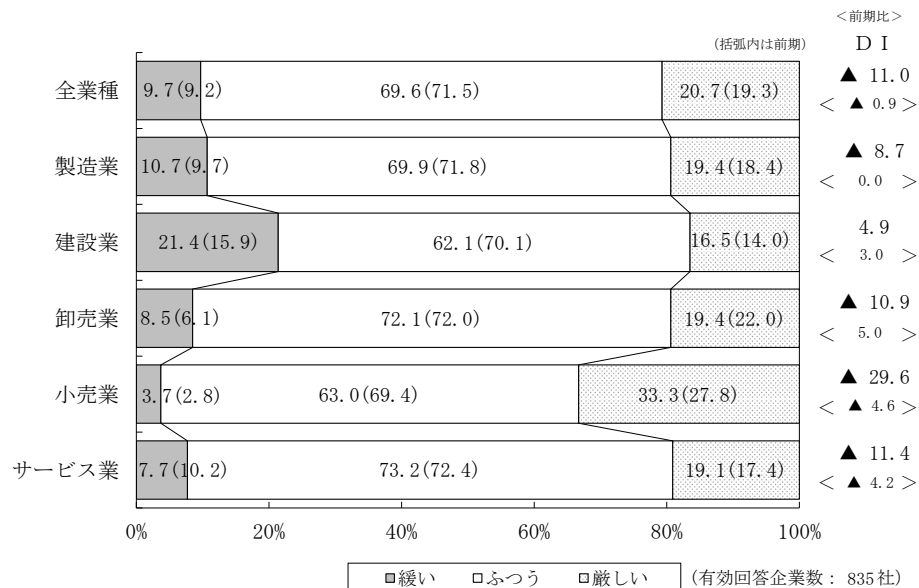
①今期の資金繰り（前年同期比）



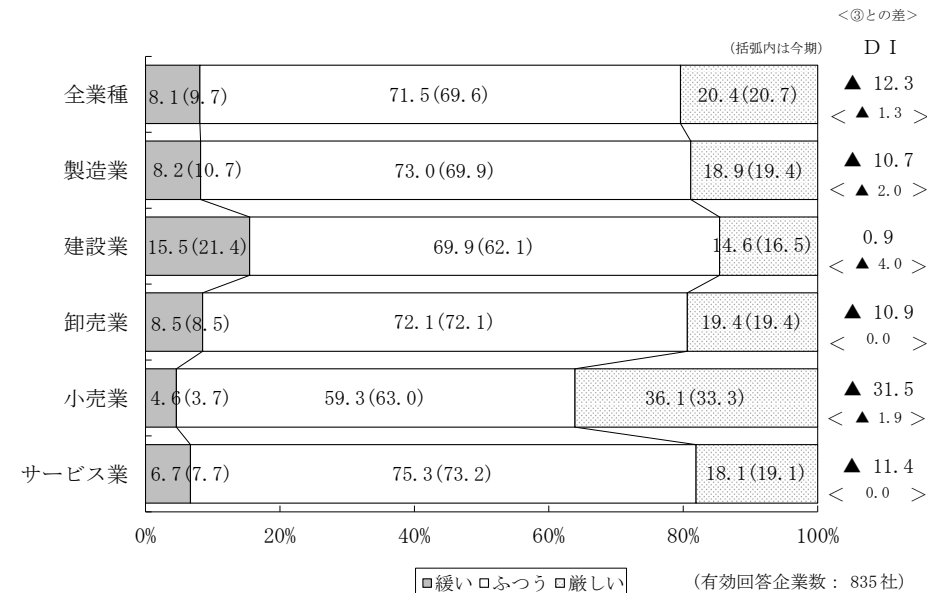
②来期の資金繰りの見通し（前年同期比）



③今期の資金繰り（水準）

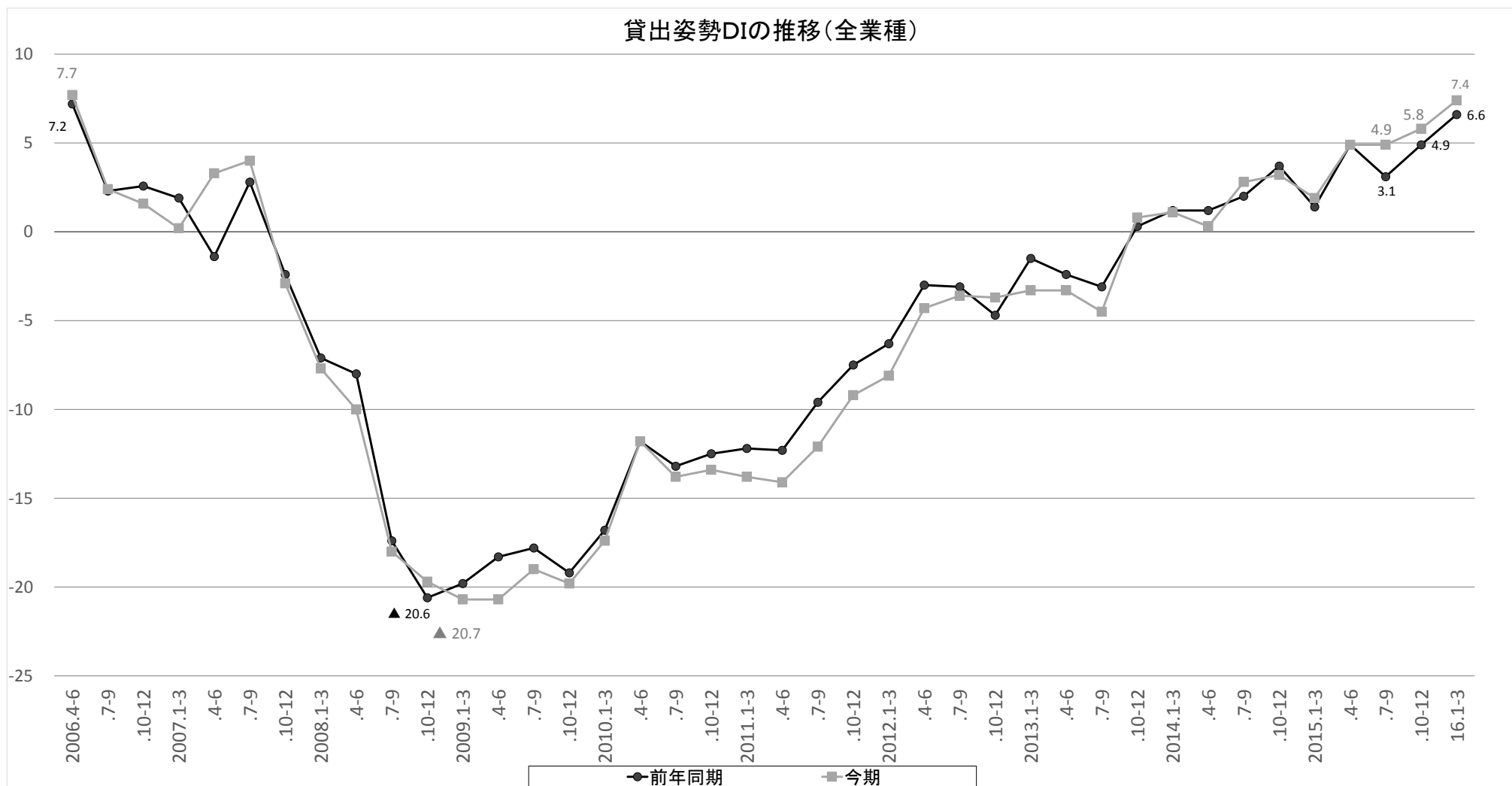


④来期の資金繰りの見通し（水準）

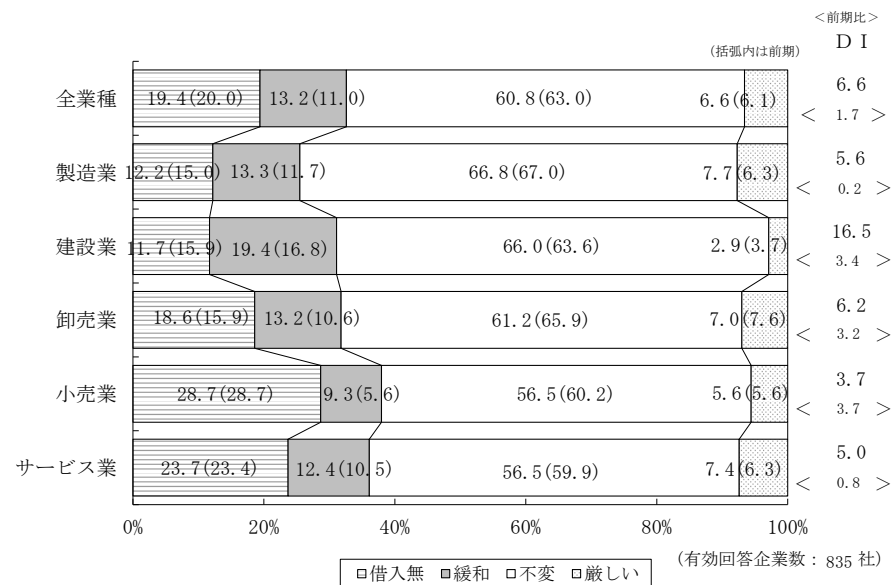


5. 民間金融機関の貸出姿勢

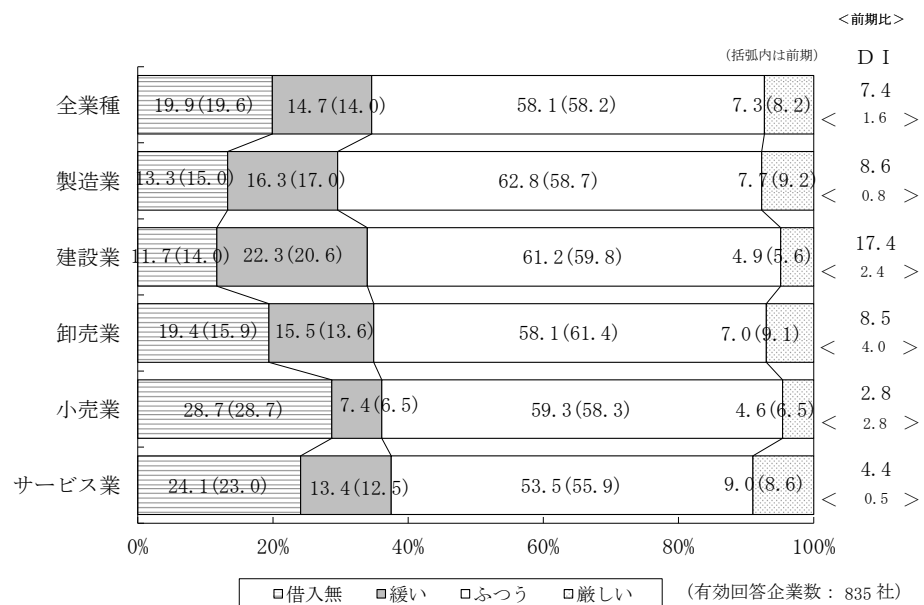
○「民間金融機関の貸出姿勢DI」（前年同期比・全業種）は、前期と比べ1.7ポイント増加し6.6と緩和傾向が続いている。



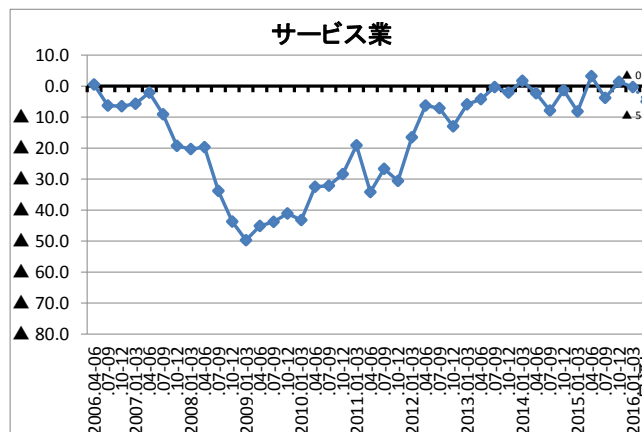
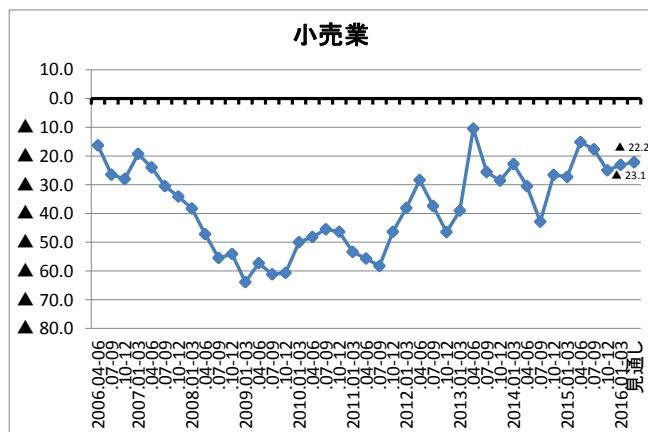
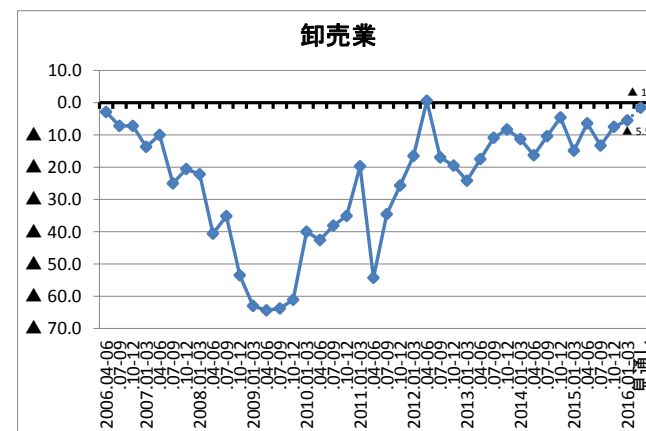
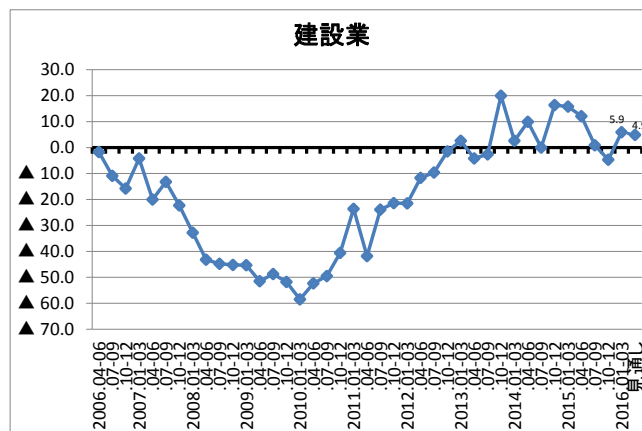
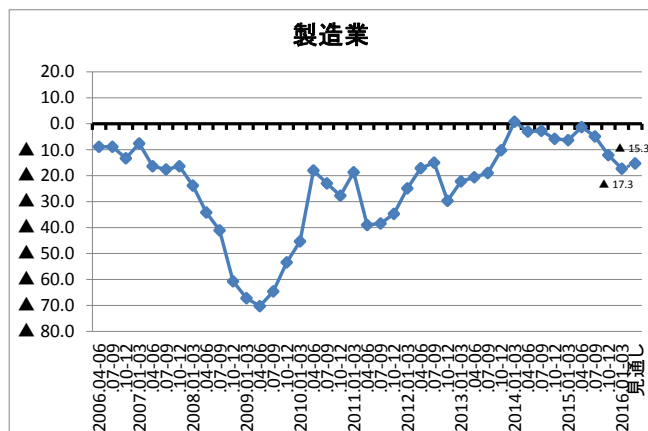
①民間金融機関の貸出姿勢（前年同期比）



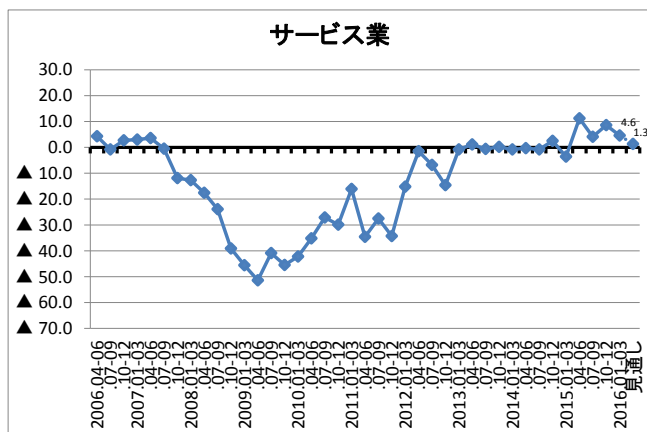
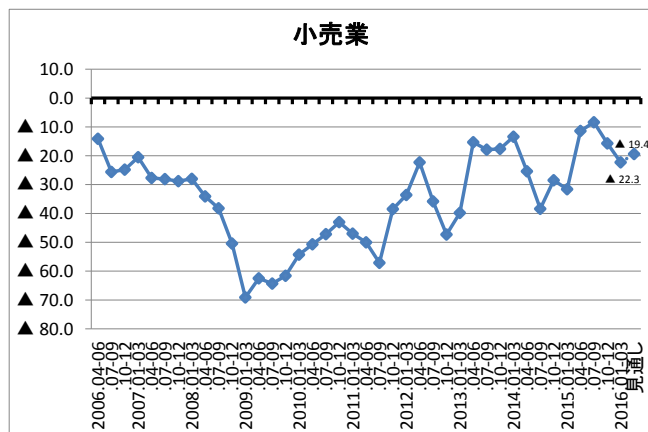
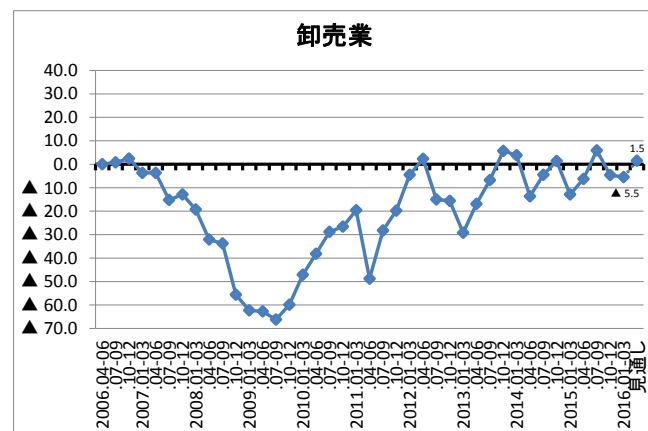
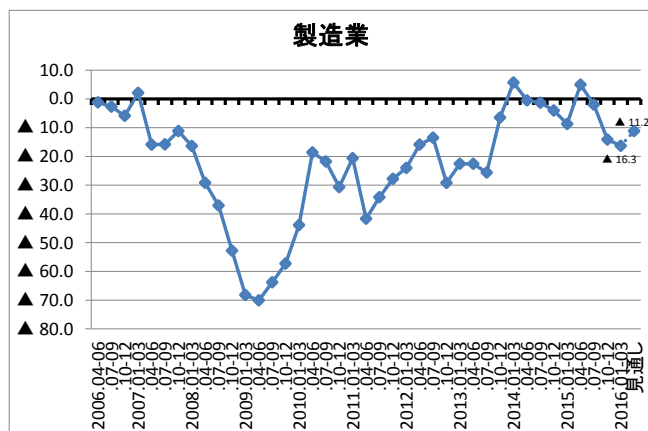
②民間金融機関の貸出姿勢（今期水準）



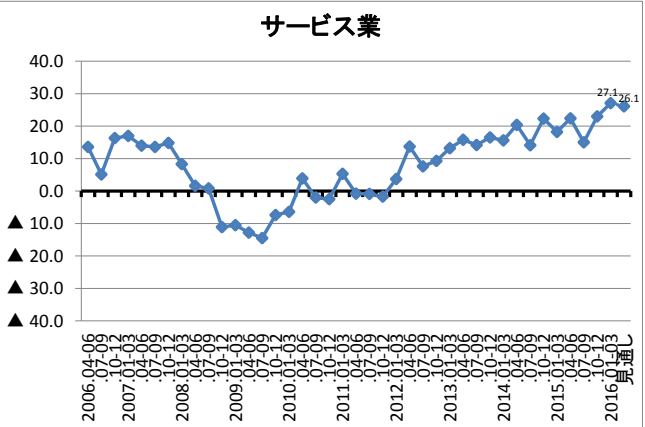
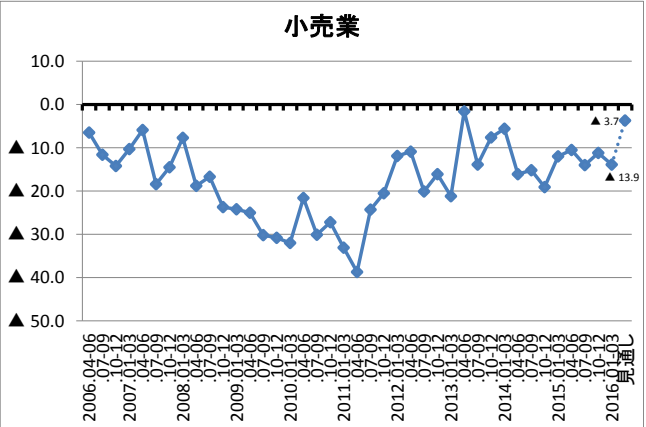
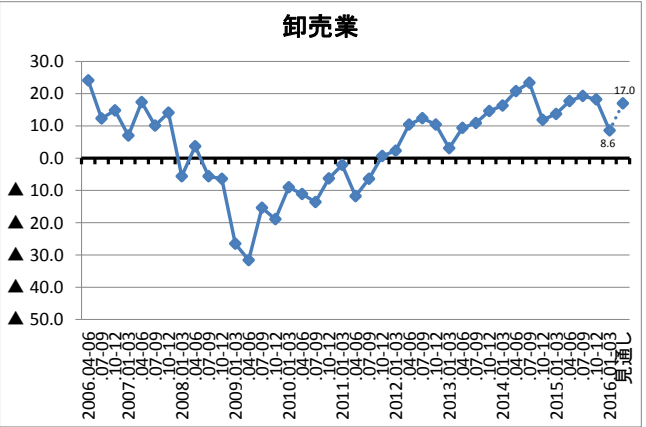
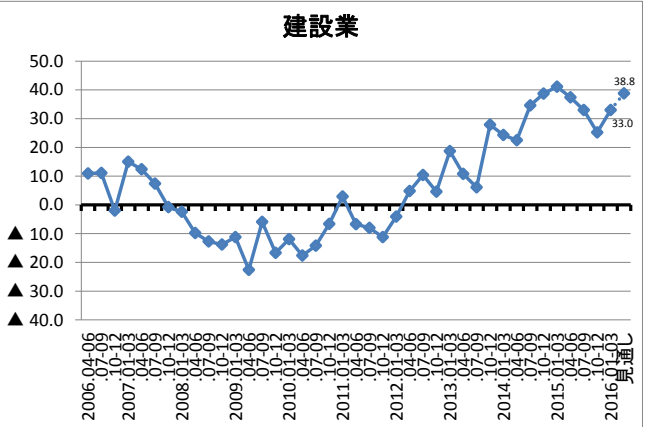
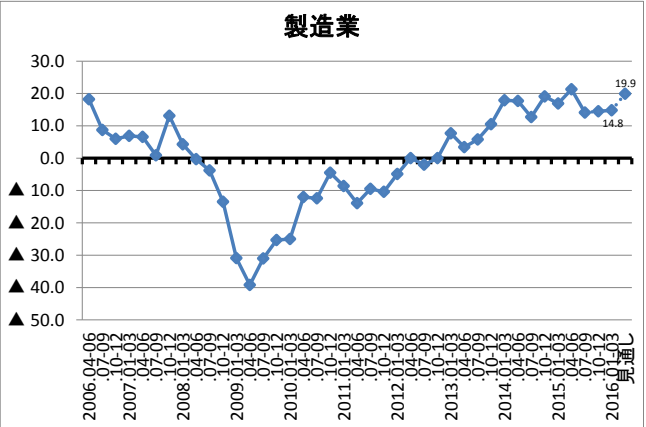
参考 1 <業況 D I 業種別・前年同期比>



参考2 <売上D I 業種別・前年同期比>



参考3＜採算D I 業種別・今期水準＞



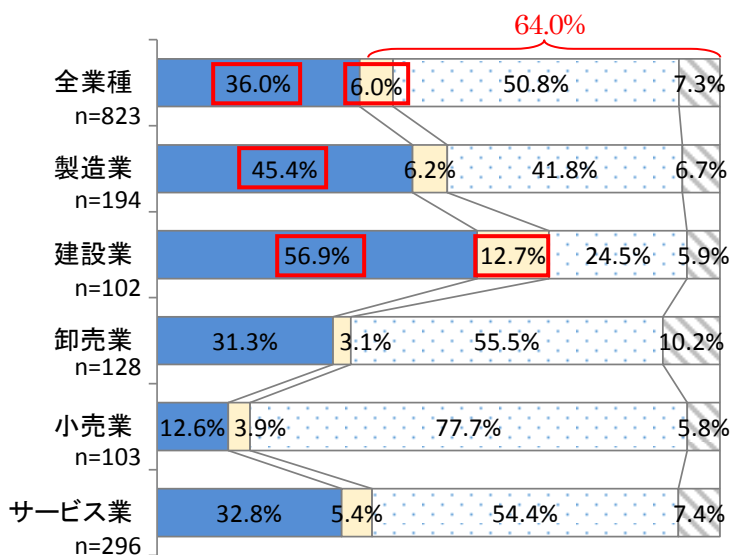
<参考4>付帯調査：「採用の動向について」

2015年度の採用実績について

- 【図1】2015年度(2015年4月～2016年3月入社)に、「正社員を採用した」企業は36.0%。業種別にみると、建設業が56.9%と採用した割合が高く、次いで製造業が45.4%となった。企業からは、若手人材の採用を望む声強い一方で、採用後の育成に不安を感じるとしたコメントも見られた。
- 【同】2015年度に、「正社員を募集したが採用出来なかった」企業は、6.0%、建設業では12.7%あった。企業からは「応募が少なく、条件に合った人材が採用出来ない(建設業他)」「ハローワークだけでは採用が出来ず、採用経費が負担(製造業他)」といった声が多く聞かれた。
- 【図2】2015年度に、「非正規社員を採用した」企業は26.8%。業種別にみると、製造業が31.9%と最も高い。
- 【図3】2015年度に非正規社員から正社員への登用をした企業は約1割あった。人材不足が深刻となる中、「経営者も従業員も、『今が良ければ』という気持ちを捨て、将来を見据えた対応していかなければならない(製造業)」といった指摘もあった。

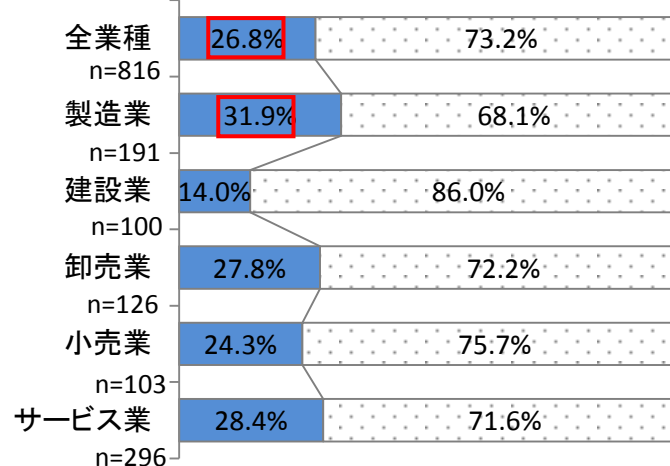
【図1】2015年度の正社員の採用実績について

■ 採用した ■ 募集したが採用出来なかった
□ 募集せず採用しなかった □ 採用しなかった(募集有無不明)



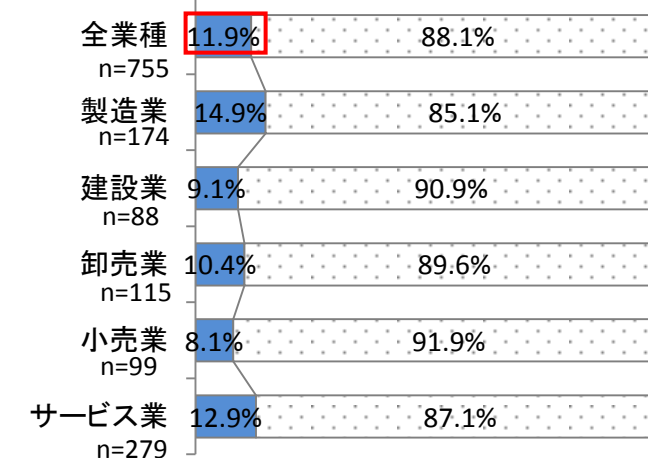
【図2】2015年度の非正規社員の採用実績について

■ 採用した □ 採用しなかった



【図3】非正規社員から正社員への登用

■ 登用した □ 登用しなかった

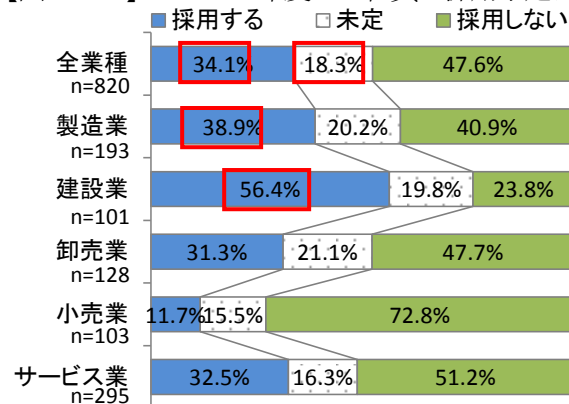


※有効回答 823 社の内、資本金 1,000 万円以下（個人事業主含）は 469 社（57.0%）、同 1,000 万円超は 354 社（43.0%）。

2016年度の採用予定について

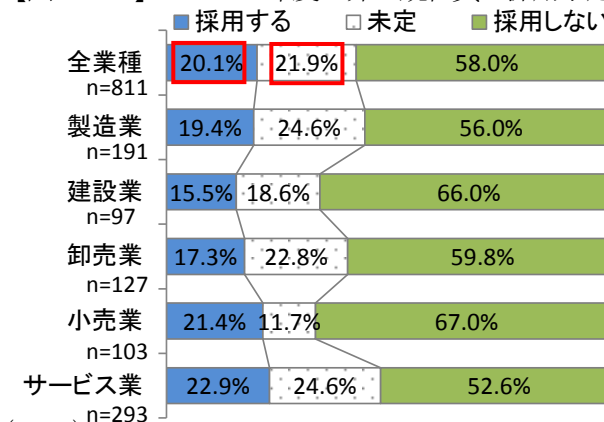
- ・【図1-1】2016年度(2016年4月～2017年3月入社)に、「正社員を採用する」企業は34.1%、「未定」とした企業は18.3%。採用予定の企業を業種別にみると、2015年度の採用実績と同じく、採用すると回答した割合が最も高い建設業で56.4%、次いで製造業が38.9%となった。
- ・【図1-2】正社員の採用を予定する企業のうち、2015年度より採用数を増やすとした企業は7割を超えた。
- ・【図2-1】2016年度に、「非正規社員を採用する」企業は20.1%、「未定」とする企業は21.9%だった。企業からは正社員のみならず、パートタイム・アルバイトの応募も少なく、人材確保が困難といった悩みが聞かれた。
- ・【図2-2】非正規社員の採用を予定する企業のうち、2015年度より採用数を増やすとした企業は6割を超えた。
- ・【図3】2016年度の採用数を増やすと回答した理由については、「業務の拡大や事業拡張により必要人数が増えるため」とした割合が、正社員を増やす企業で64.4%、非正規社員を増やす企業が70.4%と多く、前向きな採用が多いことがうかがえる。

【図1-1】2016年度の正社員の採用予定について

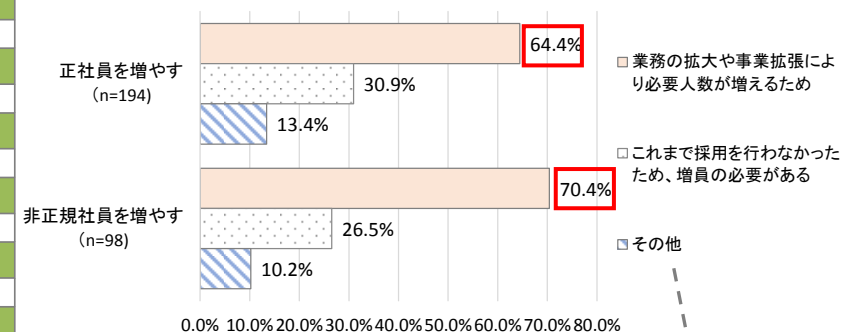


※有効回答 820 社の内、資本金 1,000 万円以下(個人事業主含)は 467 社 (57.0%)、同 1,000 万円超は 353 社 (43.0%)。

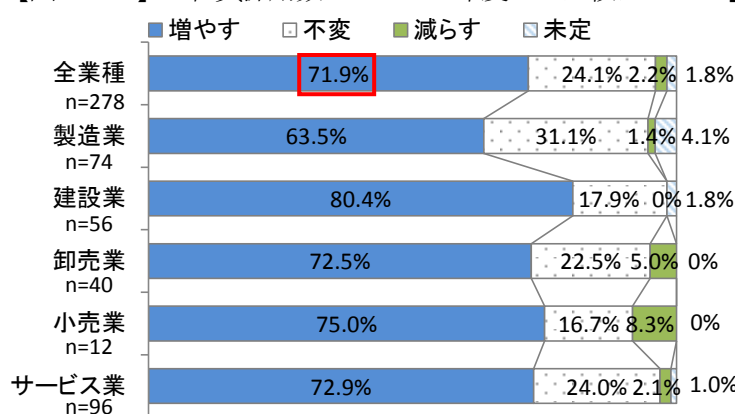
【図2-1】2016年度の非正規社員の採用予定について



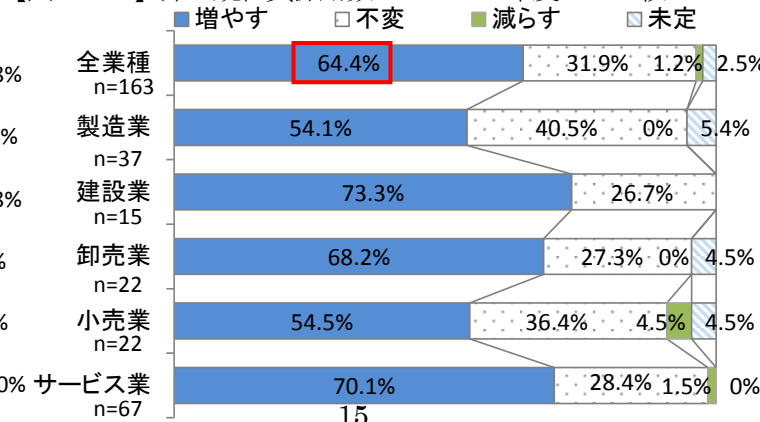
【図3】2016年度の採用数を増やす理由について(複数回答)



【図1-2】正社員採用数の2015年度との比較について



【図2-2】非正規社員採用数の2015年度との比較について



<その他>に記載されたコメント

- ・ビジネスモデルの転換にあたり、ノウハウを持った人材を採用したい。(卸売業：婦人ハンドバック)
- ・技術者の不足解消と、高齢従業員からの技術継承のため。(サービス業：ソフトウェア開発保守)
- ・定年退職等、退職者の補充のため。(製造業他多数)